

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名	NEWスケールカットP
製品コード	4696
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	篠原智光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	浴室内の浴槽、湯桶、椅子、タイル床、カラン、洗面台などの洗浄
作成日	2018年1月22日
改正日	-
整理番号	4696-00

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

引火性液体	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
生殖細胞変異原性	区分 1 (1 A及び1 B)
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 1 (1 A及び1 B)
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分 2
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分 2
水生環境有害性 (急性)	区分 3
水生環境有害性 (慢性)	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

### GHSラベル要素

#### シンボル



#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

可燃性液体  
重篤な皮膚の薬傷・目の損傷

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

重篤な眼の損傷  
 遺伝性疾患のおそれ  
 発がんのおそれの疑い  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 中枢神経系、全身毒性、腎臓の障害のおそれ  
 長期にわたる、または反復暴露による肝臓の障害のおそれ  
 水生生物に有害  
 長期的影響により水生生物に有害

### 3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別  
 ・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
陰イオン系界面活性剤	非公開	非公開	非公開
エタノール	1.7	64-17-5	2-202
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	2	84133-50-6	(7)-97
キレート剤	非公開	非公開	非公開
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	6	112-34-5	(2)-422
クエン酸	非公開	非公開	非公開
イソプロピルアルコール	0.1	67-63-0	2-207
1-プロパノール	0.2	71-23-8	2-207

#### PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号	物質名	含有量
1種407	ポリ(オキシエチレン)アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	2.0%

#### 毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

#### 労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
61	エタノール	1.7%
494	プロピルアルコール	0.3%
224の3	ジエチレングリコールモノブチルエーテル	7%

表示物質：法第57条の1、施行令18条の1別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名
61	エタノール
224の3	ジエチレングリコールモノブチルエーテル

#### 有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有するが、5%以下。

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

#### 4. 応急処置

##### 大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

##### 皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着した部分をよく洗うこと。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

##### 目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

##### 飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

##### 最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

##### 応急措置をする者の保護

- ・特になし

##### 医師に対する特別注意事項

- ・特になし



整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

### 使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。

### 火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

### 特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

### 消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

### 環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

### 回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・酸性の製品なので、必要があればアルカリ(ソーダ灰、消石灰等)で中和する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

### 二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・火花を発生しない安全な用具を使用する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

### 保管

#### 安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気のよい場所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・アルカリと一緒に保管してはならない。

#### 安全な容器包装材料

- ・特になし
-

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気の高発生率の多い場所には局所排気装置を設ける。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
エタノール	1000ppm	ACGIH (1996) TWA 1,000ppm (1,880mg/cm <sup>3</sup> )
イソプロピルアルコール	200ppm	最大許容濃度 400ppm 980mg/m <sup>3</sup> 日本産業衛生学会 (2005年版) TLV-TWA 200ppm A4 ACGIH (2005年版)

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

- ・ 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

#### 手の保護具

- ・ 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

#### 目の保護具

- ・ 保護眼鏡 (普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

- ・ 保護衣、保護前掛け等を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	: 淡黄色透明液体
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 3.8
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: 69.5℃
自然発火温度 (発火点)	: なし
燃焼性 (固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし



整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1. 09
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

#### 化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。

#### 危険有害反応性の可能性

- ・ 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

#### 避けるべき条件

- ・ 加熱・熱源・裸火
- ・ 強酸化剤との接触を避ける。

#### 混触危険性物質

- ・ 強酸化剤 (引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

#### 危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

#### その他

- ・ 特になし

## 11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ 陰イオン系界面活性剤

#### 《急性毒性》

経口：マウスLD50：1.6g/kg

#### 《皮膚腐食性/刺激性》

モルモット, 未希釈, 4回連続塗布試験：平均評点 = 0.4

(判定基準と評点：反応は認められない=0, かすかな紅斑を認める=1, 明瞭な紅斑を認める=2, 紅斑と浮腫を認める=3, 紅斑と浮腫及び痂皮または壊死を認める=4)

#### 《眼に対する重篤な損傷/刺激性》

ウサギ, 未希釈, OECD405法：区分1

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

《呼吸器感作性/皮膚感作性》 データなし。

《生殖細胞変異原性》

Ames試験 (TA98, TA100) : 陰性

《発がん性》 データなし。

《生殖毒性》 データなし

《特定臓器/全身毒性(単回暴露)》 データなし

《特定臓器/全身毒性(反復暴露)》 データなし

《吸引性呼吸器有害性》 データなし

・ エタノール

《急性毒性》

経口:【エタノール】

経口 ヒト : LD<sub>0</sub> 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)

経口 ラット : LD<sub>50</sub> 7,060mg/kg 呼吸器系

経口 ヒト(男) : TD<sub>0</sub> 700mg/kg 行動(精神生理学上)

【ノルマルプロピルアルコール】

ラットLD<sub>50</sub> 値: 1900mg/kg、1870mg/kg、5400mg/kg

6500mg/kg に基づき、計算を適用した。計算値は2695mg/kg

ウサギLD<sub>50</sub> 値: 6700mg/kg、4060mg/kg、4000mg/kg及び4050mg/kg に基づき、計算を適用した。計算値は4031mg/kg

20000ppmの1時間ばく露(4時間換算値: 24.531mg/L)でラットに死亡が認められなかったとの記述、4000ppm(9.84mg/L)の4時間ばく露でラット6例中2例が死亡したとの記述があるが、LC<sub>50</sub> 値は示されていない。

【イソプロピルアルコール】

経口 ラット LD<sub>50</sub> 5280mg/kg

経口 ラット LD<sub>50</sub> 5500mg/kg

経口 ラット LD<sub>50</sub> 5480mg/kg

経口 ラット LD<sub>50</sub> 4710mg/kg

経口 ラット LD<sub>50</sub> 1870mg/kg

上記データにより統計計算し、3437mg/kg

経皮:【イソプロピルアルコール】

経皮 ウサギ LD<sub>50</sub> 12870mg/kg

経皮 ウサギ LD<sub>50</sub> 4059mg/kg

吸入(ガス):【エタノール】

吸入 ラット : LC<sub>50</sub> 20,000ppm/10h 毒性未評価

吸入(蒸気)【イソプロピルアルコール】

吸入(蒸気) ラット LC<sub>50</sub> 72600mg/m<sup>3</sup>(29512ppm)/4H

吸入(蒸気) ラット LC<sub>50</sub> 72865mg/m<sup>3</sup>(29620ppm)/4H

《皮膚腐食性/刺激性》

【エタノール】

皮膚 ラビット : 400mg 開放 症状(軽度)

皮膚 ラビット : 500mg/24h 症状(重度)

【ノルマルプロピルアルコール】

ウサギの皮膚を極めて軽度に刺激したとの記述から、区分3の可能性はあるが、ヒトの皮膚に適用した試験において12例中9例でerythemaが認められた。

【イソプロピルアルコール】

ウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、ヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない



整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

【エタノール】

OECD TG405及びDraize test に従った試験により「moderate」と分類されている。

ヒトで角膜上皮の傷害、結膜充血は1、2日間で回復する。

ラビット：100mg/24h 症状(中度)

【ノルマルプロピルアルコール】

ウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁及び潰瘍形成が認められた

【イソプロピルアルコール】

ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていない。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:情報なし

皮膚感作性【エタノール】

動物試験で有意の皮膚感作性は見られない。

【ノルマルプロピルアルコール】

パッチテストでアレルギー性反応が認められた1症例の記述があるが、他にデータはない。

【イソプロピルアルコール】

モルモットでのビューラー法による皮膚感作性試験では陰性であった。皮膚炎発症例で2-propanolのパッチテスト陽性例には、低分子の1級又は2級アルコール、プロピレンオキシドにも陽性を示しており、2-プロパノールが原因物質か否か明確でない

《発がん性》

【エタノール】

IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めたものである(8)。他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類している。

経口 マウス：TDL0 320mg/kg/50週 毒性未評価

【ノルマルプロピルアルコール】

ACGIHでA3 に分類されている

【イソプロピルアルコール】

グループ3、A4に分類されている。

IARC グループ3(ヒトに対する発がん性については分類できない)

《生殖細胞変異原性》

【エタノール】

ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発報告がある。

【ノルマルプロピルアルコール】

in vitro 試験のデータしかない

【イソプロピルアルコール】

in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性である

《生殖毒性》

【エタノール】

アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

吸入 ラット：TCL0 20,000ppm/7h, 妊娠, 1~22日 発育異常1)

経口 ラット：TDL0 44g/kg, 妊娠, 7~17日 発育異常

【ノルマルプロピルアルコール】

妊娠中のラットに吸入ばく露した試験において母動物に一般毒性が認められる用量で奇形の増加が認められたとの記述、ならびに雌雄ラットを用いた吸入ばく露試験において一般毒性が認められる用量で雄の生殖能低下及び子の奇形(crooked tail)増加が認められた

【イソプロピルアルコール】

ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能及び出生仔の発育に影響なかった。一方、ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

【エタノール】

ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合は死に至ることがある。

ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。

【イソプロピルアルコール】

ラットでの吸入ばく露による活動性の低下があるとの記述、及びヒトでの経口摂取による急性中毒では消火管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓及び全身毒性とした。

ヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性がある

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

【エタノール】

ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。

アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)

【ノルマルプロピルアルコール】

ラット、マウス又はウサギを用いた吸入ばく露又は経口投与試験において麻酔作用が認められたとの記述、ならびにマウスを用いた吸入ばく露試験において気道刺激性を示唆する呼吸数の減少が認められた

【イソプロピルアルコール】

ラットでの86日間又は4か月間吸入ばく露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であるとした。

ヒトに関する情報はないが、ラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、吸引性呼吸器有害性があるとした。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

・ ポリオキシエチレンアルキルエーテル

《急性毒性》

経口:ラット 2600mg/kg

経皮:ラット 2000mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》

中程度の刺激性(ウサギ、20%水溶液)/腐食性なし 陰性(人、閉鎖式、0.6%水溶液、24hr) :区分2

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

持続性の角膜混濁を伴った中程度の刺激性/角膜の腐食性なし。(ウサギ、0.1ml、非洗眼、24-72hr 評価/PIS=4.67):区分2A

・ キレート剤

《急性毒性》

経口:マウス LD50 1800mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》

強酸性であるため、経験上、皮膚、粘膜を腐食又は、刺激する。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

強酸性であるため、経験上、眼を腐食又は、激しく刺激する。

《生殖毒性》

腹腔内-マウス TDLo 200mg/kg(妊娠後7日間雌に投与)

腹腔内-マウス TDLo 40mg/kg(妊娠後7日間雌に投与)

皮下注射-マウス TDLo 200mg/kg(妊娠後13日間雌に投与)

皮下注射-マウス TDLo 1400mg/kg(妊娠後11日目から17日目にかけて雌に投与)



整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル

《急性毒性》

経口: List 1の情報源から得られた複数のラットLD50値 (6560, 5660, 7300, 9600, 6530, 5080 mg/kg) (DFGOT VII(1992), ECETOC TR. 64(1995), PATTY(5th, 2001)) が全て5000 mg/kgを超えていることから区分外とした。

経皮: List 1の情報源から得られたラットLD50値 (>2000 mg/kg) (DFGOT VII(1992)) およびウサギLD50値 (2764, 4120 mg/kg) (PATTY(5th, 2001), EU-RAR(2007)) に基づきJIS分類基準の区分外 (国連分類基準の区分5) とした。

吸入 (ガス): GHS定義における液体である。

吸入 (蒸気): データなし。

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギを用いた試験で「刺激性なし」あるいは「軽度の刺激性」の結果 (IUCLID(2000), BUA(1997), HSDB(2997)) が得られ、ヒトで行ったパッチテストでは一部の被験者に紅斑を認めたのみであった (DFGOT VII(1992), ECETOC TR. 64(1995), HSDB(2007)) ことからJIS分類基準の区分外 (国連分類基準《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》)

ウサギ眼に適用した試験で中等度の刺激性と組織損傷を示したが、14日以内に回復したと述べられ (ECETOC TR. 64(1995), PATTY(5th, 2001))、別の試験では強い刺激性 (highly irritating) が報告されている (IUCLID(2000))。これらの結果に基づき区分2とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

(呼吸器感作性) データなし。

(皮膚感作性) モルモットを用いたMaximization testにおいて感作性は見られなかった (Non sensitizer in guinea pig maximisation test., ECETOC TR. 64 1995) ことより、区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

体細胞in vivo変異原性試験 (マウスの骨髄細胞を用いた小核試験) の陰性結果 (DFGOT VII 1992) に基づき区分外とした。なお、in vitro変異原性試験では複数指標での強い陽性結果は見出されていない。

《発がん性》

データなし。

《生殖毒性》

ラットを用いた経口投与による一世代生殖試験 (OECD TG 415)、経皮投与による一世代生殖試験、および13週間投与生殖試験の各試験において、出生仔体重のわずかな低下を除き試験物質ばく露の影響は全く見られなかった (DFGOT VII(1992), EU-RAR(1997), HSDB(2007))。一方、妊娠中の器官形成期を含む期間にばく露した試験では、ラットに経口と皮下投与により、マウスに経口投与により、またウサギに経皮投与によりそれぞれ行われているが、マウスの2試験中の1試験での同腹生存仔数の減少を除き奇形性はもとより仔の発生にも悪影響は示されなかった (DFGOT VII(1992), EU-RAR(1997), HSDB(2007))。以上の結果から、親の性機能および生殖能に加えて仔の発生に対する悪影響もないと判断されるので区分外とした。なお、器官形成期投与のマウスの1試験で見られた同腹生存仔数の減少 (HSDB(2007))

《標的臓器/全身毒性 (単回暴露)》

ウサギに経口投与により約2000 mg/kg (2130 uL/kg) で死亡が発生し、おおよそ1000~2000 mg/kgで腹臥位となり一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状に加え腎臓傷害が見られ (DFGOT VII(1992))、また、本物質の主要な急性症状として中枢神経症状と腎臓傷害が記述されている (DFGOT VII(1992))。一方、本物質を含む塗料のばく露を受けたヒトで腎臓傷害が報告されているが (DFGOT VII(1992), BUA Report 204(1977))、本物質の直接的影響ではなくアルコールとの相乗作用によると指摘されている (DFGOT VII(1992))。ウサギの試験結果には腎臓傷害の種類と程度について記載がなく詳細不明である。したがって、腎臓の所見については分類できないが、中枢神経症状は区分2とした。

《標的臓器/全身毒性 (反復暴露)》

ラットを用いた6週間 (雄のみ) および13週間反復経口投与試験で重大な影響は認められず、NOAELはそれぞれ891 mg/kg/day (カットオフ値: 217 mg/kg/day) および250 mg/kg/dayと報告されている (DFGOT VII(1992), HSDB(2007))。また、ラットに13週間経皮ばく露による試験では最高用量2000 mg/kg/dayでも全身影響を示さなかった (EU-RAR(2007))。これらの用量がいずれもガイダンス値の区分2の範囲の上限を超えている。その他に複数の経口、経皮の反復ばく露による試験が実施されているが、それらの結果からガイダンス値範囲に相当する用量での重大な毒性の発現は確認できないことから区分外 (経口、経皮) に該当するが、吸入での毒性影響が明確でないことから分類できないとした。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし。



整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

・ クエン酸

《急性毒性》

経口: 経口 ラット LD50 3,000mg/kg(無水物として)

経口 マウス LD50 5,040mg/kg(無水物として)

経皮: データなし。

吸入(ガス): データなし。

吸入(蒸気): データなし。

吸入(粉じん・ミスト): データなし。

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚 ウサギ 500mg 24hr mild(弱刺激性)(無水物として)

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

眼 ウサギ 750 $\mu$ g 24hr sev.(強刺激性)(無水物として)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし。

皮膚感作性: データなし。

《発がん性》

データなし。

《生殖細胞変異原性》

データなし。

《生殖毒性》

データなし。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

データなし。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

データなし。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし。

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報: 記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 陰イオン系界面活性剤

生殖毒性 : ヒメダカ, 96h, LC50 : 4.4 mg/L

残留性/分解性: 生分解度試験: BOD生分解率 0%, DOC生分解率 41%

・ ポリオキシエチレンアルキルエーテル

《水生環境有害性》(急性)

生態毒性: LC50(96H) 魚類(コイ) = 4mg/L

・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル

《水生環境有害性》(急性)

魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 1300 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 100 mg/L、藻類(セネデスマス)の96時間EC50 > 100 mg/L(いずれもEU-RAR, 1999)から、区分外とした。

《水生環境有害性》(慢性)

難水溶性でなく(水溶解度=1000000mg/L(PHYSROP Database, 2008))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

・ クエン酸

《水生環境有害性》(急性)

データなし。

《水性環境有害性》(慢性)

微生物等による分解性が良好と判断された物質

オゾン層への有害性 : データなし

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11.08

### 1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 1 4. 輸送上の注意

#### 国際規制：

##### 国連分類

該当しない

##### 国連番号

該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

#### 国内規制：

##### 容器イエローラベル

該当しない

#### 輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 「火気注意」
- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

### 1 5. 適用法令

#### 火薬類取締法：

対象外

#### 高圧ガス保安法：

対象外

#### 消防法：（ ）内は、指定数量

非危険物 (指定可燃物 可燃性液体類)

#### 毒物及び劇物取締法 (毒劇物取締法)：

非該当 (該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

#### 労働安全衛生法：

表示対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

#### 労働安全衛生法 (有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分は含有するが、5%以下のため非該当 (詳細 3. 組成、成分情報を参照)

#### 労働安全衛生法 (危険物)：

非該当

#### 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

PRTRに該当する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	NEWスケールカットP	作成日	2018年1月22日
4696-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 08

## 16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)  
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

---

### ※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。